

リード芦屋新聞

絵本の役割伝えたい

発行元
芦屋市立
あしや
生活センター
リード
記事
寺本 空未

「絵本で子育て」センター理事長の森ゆり子さん

「絵本で子育て」センター理事長の森ゆりさんは、いろいろな人たちに絵本の大切さや役割を知ってもらいたいと思い、このセンターを作りました。森さんは、絵本の講演会を開いたり、絵本に関するイベントを開いたりすることで、多くの人にこの想いを伝えようとしています。絵本の講演会に参加してくれる人の年齢や国籍、職業などもバラバラですが、絵本の大切さを多くの人に知ってもらいたいという思いは、同じです。

このセンターを作った理由、2つあります。1つは、読み聞かせ会がいろいろな場所で行われ、子育て中の親御さんは、子どもを抱える親御さんは、多くいて、どうやって言葉をかけていいのかわからない」というものでした。



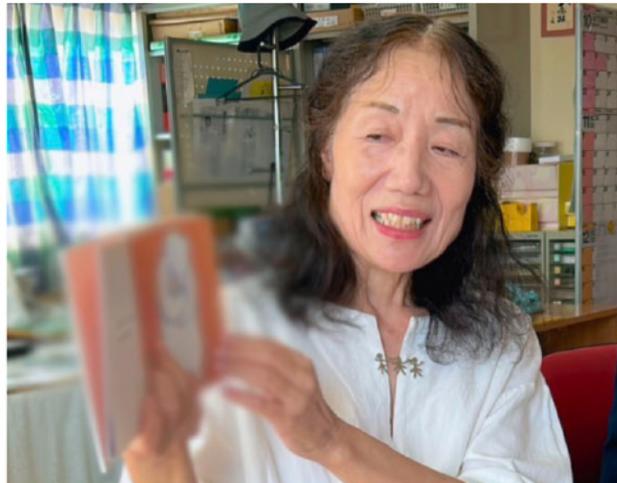
時代と子育て環境の変化

体験できないことが多くなっても大丈夫

絵本をできるだけ家に保管しておいてほしいと思っています。絵本は、親子の回路を作ります。絵本があることで、将来、子どもが大きくなっても話の話題になったり、小さい時とは違った子ども読みの方向

見つけることができます。絵本はなくてはならないものになってきていると思いませんか。昔は近所の異年齢の人たちと遊ぶのが当たり前でしたが、今はないことが影響していると思います。

動かされるが多かったですが、そのような体験ができなくなってきた今、いろいろな感情を絵本から学ぶことが多くなっています。他にも、子どもたちの3つの「間」がなくなってきた



して、この子に読んであげたいと思う気持ちが大切だと思っています。私は、読み聞かせ会を「レストラン」のご馳走のようなものと思っています。毎日「馳走ではなくて、普段は家庭で親御さんが自分

の言葉で読んであげてほしいと思っています。2つ目は、当時、テレビなどの電子機器の弊害がとても多くなってきたからです。家庭の中に電子音を流しっぱなしにしていると、その音は、小さい子ども

もにとっては言葉としては理解できず、騒音と同じです。今では、子どもの周りにメディアが存在しているのが当たり前になってきています。そのような中でも、電子音を消して親御さんの生の

声を子どもに届けてあげてほしいと思っています。子育てが少しでも絵本のおかげで楽しいものになってほしいと思っています。このような理由から、絵本の大切さを伝える「絵本講師・養成講座」を始めました。

同じ体験したような素敵な感覚味わって

時代の変化の中で、電子書籍が作られました。しかし、電子書籍では、絵本の紙質などのこだわりがなくなってしまう。そのため、紙でできた本を買ってほしいと思っています。絵本は、いろいろな問題提起がされていて学べる点があります。たとえば、いじめの起こったクラスで、先生は怒るのではなく、いじめについて書かれたとも影響していると思えます。1つ目は、幼い時からお稽古に行ったりして、遊ぶ「時間」がなくなってしまう。2つ目は、子どもたちだけを遊ばせておくのが危険なので、公園などの遊ぶ「空間」がなくなってしまう。3つ目は、「仲間」がいなくなってしまう。絵本の比重が大きくなってきた

た絵本を読みました。それだけで子どもたちは、何かを読み取り、そのクラスにはいじめがなくなりました。年齢によっても理解度は異なりますが、何かを感じとっているのです。読むことで、読み手と聞き手が絵本の中で、同じ体験をしたかのように感じます。読んでいる人にも聞いている人にもいろいろな気づきをさせてくれる絵本は、とても素敵だと思えます。絵本を読むとき、親御さんは、時間がかかると感じしてしまうかもしれませんが、しかし、絵本を読むのは、たった数分です。その時間の間だけでも手を止め、読む相手のことを考えて、感情を込めて読んでほしいと思っています。

昔は、遊びの中で感情を